



UNIX®、Linux、および macOS でのインストール

Version 2024.1
2024-06-03

UNIX®, Linux、および macOS でのインストール
InterSystems IRIS Data Platform Version 2024.1 2024-06-03
Copyright © 2024 InterSystems Corporation
All rights reserved.

InterSystems®, HealthShare Care Community®, HealthShare Unified Care Record®, IntegratedML®, InterSystems Caché®, InterSystems Ensemble®, InterSystems HealthShare®, InterSystems IRIS®, および TrakCare は、InterSystems Corporation の登録商標です。HealthShare® CMS Solution Pack™ HealthShare® Health Connect Cloud™, InterSystems IRIS for Health™, InterSystems Supply Chain Orchestrator™, および InterSystems TotalView™ For Asset Management は、InterSystems Corporation の商標です。TrakCare は、オーストラリアおよび EU における登録商標です。

ここで使われている他の全てのブランドまたは製品名は、各社および各組織の商標または登録商標です。

このドキュメントは、インターシステムズ社(住所: One Memorial Drive, Cambridge, MA 02142)あるいはその子会社が所有する企業秘密および秘密情報を含んでおり、インターシステムズ社の製品を稼働および維持するためにのみ提供される。この発行物のいかなる部分も他の目的のために使用してはならない。また、インターシステムズ社の書面による事前の同意がない限り、本発行物を、いかなる形式、いかなる手段で、その全てまたは一部を、再発行、複製、開示、送付、検索可能なシステムへの保存、あるいは人またはコンピュータ言語への翻訳はしてはならない。

かかるプログラムと関連ドキュメントについて書かれているインターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載されている範囲を除き、ここに記載された本ドキュメントとソフトウェアプログラムの複製、使用、廃棄は禁じられている。インターシステムズ社は、ソフトウェアライセンス契約に記載されている事項以外にかかるソフトウェアプログラムに関する説明と保証をするものではない。さらに、かかるソフトウェアに関する、あるいはかかるソフトウェアの使用から起こるいかなる損失、損害に対するインターシステムズ社の責任は、ソフトウェアライセンス契約にある事項に制限される。

前述は、そのコンピュータソフトウェアの使用およびそれによって起こるインターシステムズ社の責任の範囲、制限に関する一般的な概略である。完全な参照情報は、インターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載され、そのコピーは要望によって入手することができる。

インターシステムズ社は、本ドキュメントにある誤りに対する責任を放棄する。また、インターシステムズ社は、独自の裁量にて事前通知なしに、本ドキュメントに記載された製品および実行に対する代替と変更を行う権利を有する。

インターシステムズ社の製品に関するサポートやご質問は、以下にお問い合わせください:

InterSystems Worldwide Response Center (WRC)
Tel: +1-617-621-0700
Tel: +44 (0) 844 854 2917
Email: support@InterSystems.com

目次

1 UNIX®、Linux、および macOS でのインストールの概要	1
1.1 このドキュメントの使用法	1
1.2 プロダクション・システムでの展開	1
2 UNIX®、Linux、および macOS でのインストール前の手順	3
2.1 手順 1：サポート対象プラットフォームの確認	3
2.2 手順 2：プラットフォーム固有の注意事項の確認	3
2.3 手順 3：Web サーバのインストール	4
2.4 手順 4：ラージ・ページおよびヒュージ・ページの構成 (AIX® および Linux)	4
2.5 手順 5：ユーザ・プロセスの最大数に関する推奨事項	4
2.6 手順 6：所有者およびグループの決定	5
2.7 手順 7：swappiness の設定 (Linux)	5
2.8 手順 8：VS Code ObjectScript 開発環境のインストール (Linux と macOS)	5
2.9 手順 9：InterSystems IRIS キットの入手	6
2.10 手順 10：インストール・キットの解凍	6
2.11 手順 11：必要な依存関係のインストール	6
2.12 手順 12：インストール方針の選択	7
3 UNIX®、Linux、および macOS での手動インストール	9
3.1 手順 1：root としてログイン	9
3.2 手順 2：irisinstall の実行	9
3.3 手順 3：システム・タイプ	10
3.4 手順 4：インストールの開始	10
3.5 手順 5：インストール・タイプの選択	10
4 UNIX®、Linux、および macOS での開発インストール	13
4.1 開発インストールの概要	13
4.2 手順 1：セキュリティ設定の選択	14
4.3 手順 2：インスタンス所有者の定義	14
4.4 手順 3：インスタンスを起動または停止するグループの決定	15
4.5 手順 4：Unicode サポートのインストール	15
4.6 手順 5：Web サーバの構成	15
4.7 手順 6：ライセンス・キーの有効化	16
4.8 手順 7：インストールの確認	16
5 UNIX®、Linux、および macOS でのサーバ・インストール	17
5.1 サーバ・インストールの概要	17
5.2 手順 1：セキュリティ設定の選択	18
5.3 手順 2：インスタンス所有者の定義	18
5.4 手順 3：インスタンスを起動または停止するグループの決定	19
5.5 手順 4：追加のセキュリティ・オプションの構成	19
5.6 手順 5：Unicode サポートのインストール	20
5.7 手順 6：Web サーバの構成	20
5.8 手順 7：ライセンス・キーの有効化	20
5.9 手順 8：インストールの確認	21
6 UNIX®、Linux、および macOS でのカスタム・インストール	23
6.1 カスタム・インストールの概要	23
6.2 手順 1：セキュリティ設定の選択	24
6.3 手順 2：インスタンス所有者の定義	24

6.4 手順 3 : インスタンスを起動または停止するグループの決定	25
6.5 手順 4 : 追加のセキュリティ・オプションの構成	25
6.6 手順 5 : Unicode サポートのインストール	25
6.7 手順 6 : Web サーバの構成	26
6.8 手順 7 : ライセンス・キーの有効化	26
6.9 手順 8 : インストールの確認	27
7 UNIX®, Linux、および macOS でのクライアントのみのインストール	29
7.1 クライアントのみのインストールの概要	29
7.2 手順 1 : ログイン	29
7.3 手順 2 : irisinstall_client の実行	30
7.4 手順 3 : システム・タイプ	30
7.5 手順 4 : インストール・ディレクトリの指定	30
7.6 手順 5 : インストールの完了	31
8 UNIX®, Linux、および macOS での自動インストール	33
8.1 自動インストールの概要	33
8.2 手順 1 : 開始前	34
8.3 手順 2 : root としてログイン	34
8.4 手順 3 : 指定するパラメータの決定	34
8.5 手順 4 : 自動インストール・パッケージの使用	35
8.6 手順 5 : インストール・コマンドの作成	35
8.7 手順 6 : コマンドの実行	36
9 UNIX®, Linux、および macOS でのインストール後の手順	37
9.1 インストール後のタスク	37

1

UNIX®、Linux、および macOS でのインストールの概要

UNIX®、Linux、および macOS でのインストール・ガイドは、UNIX®、Linux、および macOS 上に InterSystems IRIS のキットを使用した展開をインストールするためのガイダンスを提供します。

1.1 このドキュメントの使用方法

すべてのインストールにおいて、[インストール前](#)の手順から開始する必要があります。その後、[手動](#)または[自動](#)のいずれかのインストール手順に従います。手動インストールのプロセスは、選択するセットアップ・タイプに応じて異なります。手動インストールの手順の実行後、選択したセットアップ・タイプのドキュメントを使用して、インストール・プロセスを続行します。インストールが完了したら、実行する必要がある追加のタスクについて [“UNIX®, Linux、および macOS でのインストール後の手順”](#) のセクションを参照してください。

このドキュメントでは、手順を“既定”と“詳細”というセクションに分けています。“既定”には、指定の手順に対する基本的な情報、実行する必要があるアクションについての詳細、および選択すべきオプションについての推奨事項が含まれます。“詳細”には、追加の詳細情報と選択できるその他のオプションが含まれます。

通常、InterSystems IRIS をすばやく使用を開始するには、“既定”のセクションで十分です。特定の手順または選択すべきオプションがはっきりわからない場合は、“既定”のセクションのガイダンスに従うことができます。

1.2 プロダクション・システムでの展開

ライブ・プロダクション・システムでの展開は、開発システムでの展開より複雑な手順となります。特に、自由に使用できるリソースについて慎重に考慮し、それに応じて構成と展開を計画する必要があります。インストール・プロセスを開始する前に、リソースの計画と管理についての詳細なガイダンスを提供している以下のセクションを確認してください。

- ・ [システム・リソースの計画と管理](#)
- ・ [メモリと開始設定](#)

このドキュメントで概説する手順に従うこともできますが、“既定”セクションで説明する手順が、ユーザのシステムでは十分でない場合があります。“詳細”セクションを含め、各手順を十分に確認し、システムに適した構成を選択してください。

さらに、プロダクション・システム向けにインストールする場合は、以下の点も考慮する必要があります。

- ・ プロダクション・システムには、[自動](#)インストールまたは[構成マージ](#)の使用をお勧めします。これらの方法では、構成を保存して、同じ設定で再度展開することが容易になります。
- ・ プロダクション・システムまたは大量のメモリを消費するプロセスを実行するシステムには、[ラージ・ページ](#)または[ヒュージ・ページ](#)を強くお勧めします。
- ・ プロダクション・システムおよびリソースを多く消費するその他のシステムでは、[ユーザ・プロセスの最大数](#)を適切に構成することが重要です。
- ・ システムの [swappiness](#) の値を十分高い値に設定することは、パフォーマンスの向上に役立つ場合があります。
- ・ “ロック・ダウン” セキュリティ設定を使用してインストールを行う必要があります。これにより、展開の初期セキュリティは最強となります。詳細は、“[インターシステムズの初期セキュリティ設定](#)”を参照してください。
- ・ 手動インストールを実行する場合は、[カスタム](#)・インストールをお勧めします。これにより、展開に必要なコンポーネントのみをインストールできます。

2

UNIX®、Linux、および macOS でのインストール 前の手順

ここでは、UNIX®、Linux、および macOS でのインストールにおけるインストール前の手順を詳しく説明します。
開始する前に、以下を含め、“UNIX®、Linux、および macOS でのインストールの概要”を確認してください。

- ・ [このドキュメントの使用方法](#)
- ・ [プロダクション・システムでの展開](#)

2.1 手順 1：サポート対象プラットフォームの確認

既定：

- ・ インストールの前に“インターシステムズのサポート対象プラットフォーム”を確認して、使用する予定のテクノロジーがサポートされていることを確認します。
- ・ “サポートされているファイル・システム”で、ジャーナリングに最適なファイル・システムとマウント・オプションの詳細を確認します。

2.2 手順 2：プラットフォーム固有の注意事項の確認

既定：

- ・ プラットフォームに固有の詳細情報を確認します。
 - [AIX®](#)
 - [Red Hat Linux](#)
 - [SUSE Linux](#)
 - [Ubuntu](#)

2.3 手順 3 : Web サーバのインストール

既定 :

- ・ Apache httpd Web サーバをインストールします。この Web サーバは、インストール・プロセス中の自動構成をサポートします。

詳細 :

- ・ 別のサポート対象 Web サーバをインストールします ([この Web サーバは手動で構成](#)する必要があります)。
- ・ Web サーバなしで続行します (管理ポータルを含め、Web アプリケーションにアクセスするには、[Web サーバを手動で構成](#)する必要があります)。
- ・ [自動インストール](#)を実行しており、Apache Web サーバを自動構成しない場合は、必ずパラメータ `ISC_PACKAGE_WEB_CONFIGURE="N"` を設定してください。

重要

Apache httpd Web サーバは、インストール・プロセスで自動的に構成できるため、この Web サーバの使用をお勧めします。インストール・プロセスの開始前に、これがインストールされ、実行されていることを確認してください。ほとんどの場合、Apache Web サーバを手動で構成する必要はありません。

2.4 手順 4 : ラージ・ページおよびヒュージ・ページの構成 (AIX® および Linux)

既定 :

- ・ Linux :
 - － ほとんどのシステムではヒュージ・ページが推奨されます。["Linux でのヒュージ・ページの構成"](#)を参照してください。

詳細 :

- ・ IBM AIX®
 - － ラージ・ページは高性能な環境で構成する必要があります。["IBM AIX® でのラージ・ページの構成"](#)を参照してください。

2.5 手順 5 : ユーザ・プロセスの最大数に関する推奨事項

既定 :

- ・ この手順は、主にプロダクション・システムまたはメモリを大量に消費するプロセスを実行することが想定されるシステムに推奨されます。
- ・ 指定のユーザのすべての InterSystems IRIS プロセスおよびその他の既定のプロセスを実行するうえで十分な最大プロセス数を `maximum user processes` に設定します。

2.6 手順 6 : 所有者およびグループの決定

既定 :

- ・ インスタンスの所有者として識別されるユーザ・アカウントを特定または作成します。
- ・ インスタンスの起動および停止を許可されたグループとして識別されるグループを特定または作成します。

詳細 :

- ・ 使用しているオペレーティング・システムに `useradd` ユーティリティおよび `groupadd` ユーティリティ (または AIX® では `mkgroup` および `mkuser`) が含まれている場合は、インストール時に代わりに InterSystems IRIS スーパーサーバーの実効ユーザのアカウントおよび InterSystems IRIS プロセスの実効グループを作成できます。
- ・ オペレーティング・システムで Network Information Services (NIS) やその他のネットワークベースのユーザまたはグループのデータベースを使用している場合は、インストールの前にネットワーク・データベース内で InterSystems IRIS 実効ユーザおよび実効グループを作成することをお勧めします。詳細は、“[Owners and Groups](#)” を参照してください。
- ・ [所有者とグループを確認します。](#)
- ・ [UNIX® ユーザとグループの識別を確認します。](#)

重要

InterSystems IRIS はインストール対象のファイルに対するユーザやグループなどの許可を設定する必要があります。これを行うために、InterSystems IRIS はインストール・プロセスの `umask` を 022 に設定します。インストールが完了するまで、`umask` を変更しないでください。

2.7 手順 7 : swappiness の設定 (Linux)

既定 :

- ・ この手順は、主にプロダクション・システムまたはメモリを大量に消費するプロセスを実行することが想定されるシステムに推奨されます。
- ・ 64 GB 未満の RAM が搭載されているシステムの場合 : 5 の swappiness が推奨されます。
- ・ 64 GB を超える RAM が搭載されているシステムの場合 : 1 の swappiness が推奨されます。
- ・ swappiness の値により、システムが物理 RAM とスワップ領域との間でメモリ・ページをスワップする頻度が決まります。

2.8 手順 8 : VS Code ObjectScript 開発環境のインストール (Linux と macOS)

既定 :

- ・ Linux および macOS 環境で、[Visual Studio Code 用の InterSystems ObjectScript 拡張機能](#)をインストールします。
- ・ これは、InterSystems IRIS をインストールする前または後に実行できます。

- ・ 開発環境により、VS Code を使用して InterSystems IRIS サーバに接続し、ObjectScript でコードを開発できます。

2.9 手順 9 : InterSystems IRIS キットの入手

既定 :

- ・ [WRC InterSystems IRIS キットのダウンロード・サイト](#)からインストール・キットを入手します。

2.10 手順 10 : インストール・キットの解凍

既定 :

- ・ インストール・キットが .tar ファイルの形式 (iris-2019.3.0.710.0-lnxrhx64.tar.gz など) の場合、ファイルを一時ディレクトリに解凍し、許可の問題を回避する必要があります。以下の例を参照してください。

詳細 :

- ・ インストール・ファイルは、.tar ファイルと同じ名前のディレクトリに解凍されます (例えば、/tmp/iriskit/iris-2019.3.0.710.0-lnxrhx64)。
- ・ 従来の tar コマンドは、長いパス名に遭遇すると通知なしで失敗する場合があるため、GNU tar を使用してこのファイルを untar することをお勧めします。tar コマンドが GNU tar かどうかを判定するには、tar --version を実行します。

例 :

```
# mkdir /tmp/iriskit
# chmod og+rx /tmp/iriskit
# umask 022
# gunzip -c /download/iris-<version_number>-lnxrhx64.tar.gz | ( cd /tmp/iriskit ; tar xf - )
```

重要

/home ディレクトリ (またはこのディレクトリのサブディレクトリ) にファイルを解凍したり、InterSystems IRIS インストールをこれらのディレクトリから実行したりしないでください。また、一時ディレクトリのパス名にスペースを含めることはできません。

インストール・キットを解凍するのに使用したのと同じディレクトリに InterSystems IRIS をインストールしないでください。

2.11 手順 11 : 必要な依存関係のインストール

既定 :

- ・ 以下のコマンドを使用して要件チェッカーを実行します。

```
/<install-files-dir>/irisinstall --prechecker
```

- ・ 欠けている依存関係があればインストールします。

詳細 :

- ・ 依存関係が欠けている InterSystems IRIS をインストールしようとする、インストールは失敗し、インストーラを再実行する前にインストールすべき依存関係を指定するメッセージが表示されます。
- ・ 要件チェッカーは常に、インスタンスの起動中に実行されます。要件が満たされない場合、起動は失敗します。
- ・ macOS では、バージョン 2022.1 以前の InterSystems IRIS バージョンのインストーラに要件チェッカーはありませんが、必要な依存関係は存在します。
 - － macOS では、Homebrew を介して openssl@1.1 をインストールする必要があります (<https://formulae.brew.sh/formula/openssl@1.1>)。
 - － macOS で組み込み Python を使用するには、python@3.9 もインストールする必要があります (<https://formulae.brew.sh/formula/python@3.9>)。

2.12 手順 12 : インストール方針の選択

既定 :

- ・ [irisinstall](#)して、開発、サーバ、またはカスタムのインストールを実行します。

詳細 :

- ・ [irisinstall_client](#) を使用して、クライアントのみのインストールを実行します。
- ・ [構成マージ](#)を使用します。
- ・ [インストール・マニフェスト](#)を使用します。
- ・ [自動インストール](#)を実行します。
- ・ InterSystems IRIS ディストリビューションに [UNIX® インストール・パッケージ](#)を追加します。

3

UNIX®、Linux、および macOS での手動インストール

ここでは、UNIX®、Linux、および macOS での手動インストールの初期手順について詳しく説明します。
ここに示す手順を実行する前に、以下を完了していることを確認してください。

- ・ [UNIX®、Linux、および macOS でのインストール前の手順](#)

3.1 手順 1 : root としてログイン

既定 :

- ・ ユーザ ID root としてログインします。
- ・ root 以外のアカウントでログインしているときでも、su (スーパーユーザ) コマンドで root に変更できます。

詳細 :

- ・ root が使用できない場合は、非 root ユーザとして InterSystems IRIS の非標準の制限付きインストールを実行できます。続行する前に、"[InterSystems IRIS の非 root ユーザとしてのインストール](#)" を参照してください。

3.2 手順 2 : irisinstall の実行

既定 :

- ・ インストール・ファイルの最上位にある irisinstall スクリプトを実行し、インストールを開始します。

```
# /<install-files-dir>/irisinstall
```

- ・ <install-files-dir> はインストール・キットの場所で、通常はキットの抽出先のディレクトリです。

3.3 手順 3 : システム・タイプ

既定 :

- ・ インストール・スクリプトは、ご使用のシステム・タイプを自動的に検出し、配布メディアのインストール・タイプに対する検証を試行します。
- ・ ご使用のシステムが、例えば 32 ビットと 64 ビットなど、複数のタイプをサポートしている場合、あるいは、インストール・スクリプトがシステム・タイプを識別できない場合は、別の質問が表示されます。
- ・ インストーラ・キット名の末尾の文字列の形式で“プラットフォーム名”を入力するよう求められる場合があります。

詳細 :

- ・ 目的のシステム・タイプが配布メディア上のものと適合しない場合、インストールが停止します。
- ・ この問題を解決するには、[インターシステムズのサポート窓口](#)にお問い合わせください。

3.4 手順 4 : インストールの開始

既定 :

- ・ スクリプトにより、ホスト上の既存の InterSystems IRIS インスタンスが一覧表示されます。
- ・ [インスタンス名を入力:] というプロンプトが表示されたら、インスタンス名を入力します。
- ・ 英数字、アンダースコア、ダッシュのみを使用してください。
- ・ 入力した名前を持つインスタンスが既に存在する場合、現在のインスタンスを更新するかどうかを尋ねられます。

注釈 インストール・キットと同じ InterSystems IRIS バージョンの既存のインスタンスを選択する場合、インストールはアップグレードと見なされます。また、次のステップで説明されているように、Custom 選択を使用して、インストールされたクライアント・コンポーネントと特定の設定を変更できます。

InterSystems IRIS レジストリ・ディレクトリ (/usr/local/etc/irisys) が常に InterSystems IRIS インストール・ディレクトリと共に作成されます。

- ・ 入力した名前を持つインスタンスが存在しない場合は、新しいインスタンスを作成するかどうか、作成するのであればインストール・ディレクトリを指定するように指示されます。
- ・ 指定したディレクトリが存在しない場合は、ディレクトリを作成するかどうかを尋ねられます。これらの質問に対する既定の回答は Yes です。

詳細 :

- ・ インストール・ディレクトリの選択に関する重要な情報について、“[インストール・ディレクトリ](#)”を確認してください。

3.5 手順 5 : インストール・タイプの選択

既定 :

- ・ 以下の選択肢から開発タイプを選択します。

```
Select installation type.  
  1) Development - Install IRIS server and all language bindings  
  2) Server only - Install IRIS server  
  3) Custom - Choose components to install  
Setup type <1>?
```

- ・ 引き続き、ドキュメントで[開発](#)セットアップ・タイプについて確認してください。

詳細 :

- ・ 任意のセットアップ・タイプを選択します。異なるセットアップ・タイプの詳細は、“[セットアップ・タイプの選択](#)”を参照してください。
- ・ 引き続き、ドキュメントで選択したセットアップ・タイプについて確認してください。
 - [開発](#)
 - [サーバ](#)
 - [カスタム](#)
- ・ Web ゲートウェイをインストールする際に、お使いのシステムに CSP ゲートウェイが既にインストールされている場合は、インストーラにより CSP ゲートウェイが Web ゲートウェイに自動的にアップグレードされます。詳細は、“[既存の CSP ゲートウェイ](#)”を参照してください。

4

UNIX®、Linux、および macOS での開発インストール

ここでは、UNIX®、Linux、および macOS での手動の開発インストールの手順について詳しく説明します。

ここに示す手順を実行する前に、以下を完了していることを確認してください。

- ・ [UNIX®、Linux、および macOS でのインストール前の手順](#)
- ・ [UNIX®、Linux、および macOS での手動インストール](#) (最初の手順)

4.1 開発インストールの概要

既定：

- ・ 開発インストールでは、開発システムで必要となる InterSystems IRIS コンポーネントのみがインストールされます。
- ・ インストール・スクリプト `irisinstall` は、以下を実行します。
 - InterSystems IRIS システム・マネージャ・データベースをインストールします。
 - インストール・モードで InterSystems IRIS を起動します。
 - InterSystems IRIS システム・マネージャ・グローバルとルーチンをインストールします。
 - InterSystems IRIS を終了し、既定の構成ファイル (`iris.cpf`) を使用して再起動します。アップグレード・インストールの場合は、更新後の構成ファイルを使用して再起動されます。

詳細：

- ・ InterSystems IRIS の標準インストールは、複数のモジュール・パッケージ・スクリプトから構成されます。これらのスクリプトでは、それまでの手順に対する入力、システム環境、および既存のインスタンスをアップグレードしているかどうかなどの条件に応じて、情報の入力が求められます。
- ・ インストールの第 1 段階では、このインストールについて収集された情報がすべてパラメータ・ファイルに保存されます。
- ・ その後、実際のインストールが開始される前に、インストールの詳細を確認します。
- ・ 最終段階では、インスタンスのセットアップなど、正常終了したインストールに付随する操作を実行します。
- ・ 開発インストールには、以下のコンポーネント・グループが含まれます。

- InterSystems IRIS データベース・エンジン (ユーザ・データベース、言語ゲートウェイ、およびサーバ監視ツールを含む)
 - InterSystems IRIS ランチャー
 - スタジオ
 - データベース・ドライバ
 - InterSystems IRIS アプリケーション開発 (言語バインディングを含む)
 - Web ゲートウェイ
- ・ これらのコンポーネント・グループの詳細は、“[セットアップ・タイプの選択](#)”を参照してください。

重要 irisinstall を実行しているユーザのプロファイルに CDPATH 変数の値が設定されている場合、インストールは失敗します。

4.2 手順 1：セキュリティ設定の選択

既定：

- ・ 初期セキュリティ設定の選択を求められます。
- ・ 通常のセキュリティ設定を選択するには、「(2)」と入力します。

詳細：

- ・ 以下の初期セキュリティ設定から選択できます。
 - 最小 (1)
 - 通常 (2)
 - ロック・ダウン (3)
- ・ 最小は、InterSystems IRIS インストールにのみ使用できます。これを選択した場合、次の手順はスキップできます。インスタンスの所有者はインストーラによって root として設定されます。
- ・ カスタム・インストールでなければ選択できないセキュリティ設定もあります。詳細は、“[InterSystems IRIS カスタム・インストール](#)”を参照してください。
- ・ さまざまなセキュリティ設定と、システムで 1 つを選択する方法の詳細は、“[インターシステムズの初期セキュリティ設定](#)”を参照してください。

4.3 手順 2：インスタンス所有者の定義

既定：

- ・ 前のステップで最小またはロック・ダウンを選択した場合、追加の情報を入力するよう求められます。
 - インスタンス所有者 - InterSystems IRIS プロセスの実行に使用するアカウントのユーザ名を入力します。このアカウントに関する詳細は、“[所有者およびグループの決定](#)”を参照してください。InterSystems IRIS のインストールが完了すると、インスタンスの所有者は変更できなくなります。

- インスタンス所有者のパスワード 前のプロンプトで入力したユーザ名のパスワードを入力し、確認のために再度入力します。このユーザに対して、%All ロールを持つ InterSystems IRIS 特権ユーザ・アカウントが作成されます。

このパスワードは、InterSystems IRIS 特権ユーザ・アカウントだけでなく、_SYSTEM、Admin、および SuperUser の事前定義の各ユーザ・アカウントにも使用されます。これらの事前定義ユーザの詳細は、“[事前定義のユーザ・アカウント](#)”を参照してください。

- CSPSystem 事前定義のユーザのパスワード。

詳細 :

- ・ パスワードは、“[初期のユーザ・セキュリティ設定](#)”のテーブルに示した条件を満たしている必要があります。この手順で入力したパスワードには、スペース、タブ、またはバックスラッシュの各文字は使用できません。インストーラはそのようなパスワードを受け付けません

4.4 手順 3 : インスタンスを起動または停止するグループの決定

既定 :

- ・ InterSystems IRIS を起動および停止できるグループを指定するように求められます。
- ・ これらの特権を持つことができるのは 1 グループのみで、このマシンで有効なグループでなければなりません。
- ・ 既存のグループ名またはグループ ID 番号を入力します。InterSystems IRIS は、処理を続行する前にそのグループが実際に存在するかを確認します。
- ・ 詳細は、“[所有者およびグループの決定](#)”を参照してください。

4.5 手順 4 : Unicode サポートのインストール

既定 :

- ・ InterSystems IRIS を [8 ビット・サポート](#)または [Unicode 文字のサポート](#)のどちらでインストールするかを指定します。
- ・ アップグレード時に、8 ビットから Unicode に変換することはできますが、逆には変換できません。

4.6 手順 5 : Web サーバの構成

既定 :

- ・ ローカル Web サーバが検出されると、その Web サーバを使用してインストールに接続するかどうかを尋ねられます。
- ・ 「y」と入力します。これにより、Web サーバを[自動的に接続](#)できるようになります。
「n」と入力した場合、Web サーバは自動的に接続されず、インストール完了後に[手動で構成](#)する必要があります。

詳細 :

- ・ Web サーバが検出されない場合、中止するかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。インストールを続行することを選択した場合は、インストールの完了後に手動で Web サーバを構成する必要があります。

重要 Apache httpd Web サーバは、インストール・プロセスで自動的に構成できるため、この Web サーバの使用をお勧めします。インストール・プロセスの開始前に、これがインストールされ、実行されていることを確認してください。ほとんどの場合、Apache Web サーバを手動で構成する必要はありません。

4.7 手順 6 : ライセンス・キーの有効化

既定 :

- ・ アップグレード時に既存のインスタンスの `mgr` ディレクトリにある `iris.key` ファイルをスクリプトが検出しない場合、ライセンス・キー・ファイルの入力を求めるプロンプトが表示されます。
- ・ 有効なキーを指定する場合、インストール中にライセンスは自動的に有効化されて、ライセンス・キーはインスタンスの `mgr` ディレクトリにコピーされるので、これ以上の有効化手順は不要です。
- ・ ライセンス・キーを指定しない場合、インストールに続いて、ライセンス・キーを有効化できます。ライセンス、ライセンス・キー、および有効化の詳細は、“[ライセンス・キーの有効化](#)”を参照してください。
- ・ macOS では、`irisdb` のネットワーク接続に関するプロンプトが表示されることがあります。表示された場合は、**[許可]**を選択します。

4.8 手順 7 : インストールの確認

既定 :

- ・ インストール・オプションを確認し、Enter キーを押してインストールを続行します。[Yes] を選択すると、ファイルのコピーが開始されます。
- ・ インストールが完了すると、InterSystems IRIS システムを管理する管理ポータル URL が示されます。詳細は、“[管理ポータルの使用](#)”を参照してください。
- ・ “[インストール後のタスク](#)”に進みます。

5

UNIX®、Linux、および macOS でのサーバ・インストール

ここでは、UNIX®、Linux、および macOS での手動のサーバ・インストールの手順について詳しく説明します。

ここに示す手順を実行する前に、以下を完了していることを確認してください。

- ・ [UNIX®、Linux、および macOS でのインストール前の手順](#)
- ・ [UNIX®、Linux、および macOS での手動インストール](#) (初期手順)

5.1 サーバ・インストールの概要

既定：

- ・ サーバ・インストールでは、サーバ・システムで必要となる InterSystems IRIS コンポーネントのみがインストールされます。
- ・ インストール・スクリプト `irisinstall` は、以下を実行します。
 - － InterSystems IRIS システム・マネージャ・データベースをインストールします。
 - － インストール・モードで InterSystems IRIS を起動します。
 - － InterSystems IRIS システム・マネージャ・グローバルとルーチンをインストールします。
 - － InterSystems IRIS を終了し、既定の構成ファイル (`iris.cpf`) を使用して再起動します。アップグレード・インストールの場合は、更新後の構成ファイルを使用して再起動されます。

詳細：

- ・ InterSystems IRIS の標準インストールは、複数のモジュール・パッケージ・スクリプトから構成されます。これらのスクリプトでは、それまでの手順に対する入力、システム環境、および既存のインスタンスをアップグレードしているかどうかなどの条件に応じて、情報の入力が求められます。
- ・ インストールの第 1 段階では、このインストールについて収集された情報がすべてパラメータ・ファイルに保存されます。
- ・ その後、実際のインストールが開始される前に、インストールの詳細を確認します。
- ・ 最終段階では、インスタンスのセットアップなど、正常終了したインストールに付随する操作を実行します。

- ・ サーバ・インストールには、以下のコンポーネント・グループが含まれます。
 - InterSystems IRIS データベース・エンジン (ユーザ・データベース、言語ゲートウェイ、およびサーバ監視ツールを含む)
 - InterSystems IRIS ランチャー
 - Web ゲートウェイ
- ・ これらのコンポーネント・グループの詳細は、“[セットアップ・タイプの選択](#)”を参照してください。

5.2 手順 1：セキュリティ設定の選択

既定：

- ・ 初期セキュリティ設定の選択を求められます。
- ・ のセキュリティ設定を選択するには、「(2)」と入力します。

詳細：

- ・ 以下の初期セキュリティ設定から選択できます。
 - (1)
 - (2)
 - (3)
- ・ 最小は、InterSystems IRIS インストールにのみ使用できます。これを選択した場合、次の手順はスキップできます。インスタンスの所有者はインストーラによって root として設定されます。
- ・ カスタム・インストールでなければ選択できないセキュリティ設定もあります。詳細は、“[InterSystems IRIS カスタム・インストール](#)”を参照してください。
- ・ さまざまなセキュリティ設定と、システムで 1 つを選択する方法の詳細は、“[インターシステムズの初期セキュリティ設定](#)”を参照してください。

5.3 手順 2：インスタンス所有者の定義

既定：

- ・ 前のステップで最小またはロック・ダウンを選択した場合、追加の情報を入力するよう求められます。
 - インスタンス所有者 – InterSystems IRIS プロセスの実行に使用するアカウントのユーザ名を入力します。このアカウントに関する詳細は、“[所有者およびグループの決定](#)”を参照してください。InterSystems IRIS のインストールが完了すると、インスタンスの所有者は変更できなくなります。
 - インスタンス所有者のパスワード – 前のプロンプトで入力したユーザ名のパスワードを入力し、確認のために再度入力します。このユーザに対して、%All ロールを持つ InterSystems IRIS 特権ユーザ・アカウントが作成されます。

このパスワードは、InterSystems IRIS 特権ユーザ・アカウントだけでなく、_SYSTEM、Admin、および SuperUser の事前定義の各ユーザ・アカウントにも使用されます。これらの事前定義ユーザの詳細は、“[事前定義のユーザ・アカウント](#)”を参照してください。

- CSPSystem 事前定義のユーザのパスワード。

詳細 :

- ・ パスワードは、“[初期のユーザ・セキュリティ設定](#)” のテーブルに示した条件を満たしている必要があります。この手順で入力したパスワードには、スペース、タブ、またはバックスラッシュの各文字は使用できません。インストーラはそのようなパスワードを受け付けません

5.4 手順 3 : インスタンスを起動または停止するグループの決定

既定 :

- ・ InterSystems IRIS を起動および停止できるグループを指定するように求められます。
- ・ これらの特権を持つことができるのは 1 グループのみで、このマシンで有効なグループでなければなりません。
- ・ 既存のグループ名またはグループ ID 番号を入力します。InterSystems IRIS は、処理を続行する前にそのグループが実際に存在するかを確認します。
- ・ 詳細は、“[所有者およびグループの決定](#)”を参照してください。

5.5 手順 4 : 追加のセキュリティ・オプションの構成

既定 :

- ・ 初期セキュリティ設定で または を選択した場合、追加のセキュリティ・オプションを構成するかどうかを尋ねられます。
- ・ 選択した初期セキュリティ設定の既定値を使用してインストールを続行するには、「N」と入力します。

詳細 :

- ・ 「Y」を選択すると、追加の設定を構成するよう求められます。
 - [InterSystems IRIS の実効グループ] – InterSystems IRIS 内部の実効グループ ID。また、インストール環境にあるすべてのファイルと実行可能ファイルに対する特権をすべて保持しています。最大限のセキュリティ対策として、このグループには実際のユーザは含めないでください。(既定値は irisusr です。)
 - [InterSystems IRIS スーパーサーバの実効ユーザ] – スーパーサーバとジョブ・サーバによって開始されたプロセスの実効ユーザ ID です。ここでも最大限のセキュリティを実現するために、実際のユーザにはこのユーザ ID を使用しないようにします。(既定値は irisusr です。)
- ・ 追加情報は、“[所有者およびグループの決定](#)”を参照してください。

5.6 手順 5 : Unicode サポートのインストール

既定 :

- ・ InterSystems IRIS を [8 ビット・サポート](#)または [Unicode 文字のサポート](#)のどちらでインストールするかを指定します。
- ・ アップグレード時に、8 ビットから Unicode に変換することはできますが、逆には変換できません。

5.7 手順 6 : Web サーバの構成

既定 :

- ・ ローカル Web サーバが検出されると、その Web サーバを使用してインストールに接続するかどうかを尋ねられます。
- ・ 「y」と入力します。Web サーバは[自動的に接続](#)されます。
- ・ 「1」と入力して、[ウェブサーバのタイプ] に Apache を指定します。
- ・ Apache 構成ファイルの場所を入力します。既定のパスは `/etc/httpd/conf/httpd.conf` です。
- ・ [Apache httpd ポート番号] を指定します。既定値は 80 (macOS では 8080) です。アップグレード・インストールではこの選択肢は表示されず、元のインスタンスのポート番号がそのまま使用されます。

重要 インストール中にカスタムの Web サーバのポート番号を指定すると、[WebServerPort](#) CPF パラメータのみが変更されます。これは、ご使用の Web サーバがリッスンするように構成されたポート番号である必要があります。既定の Web サーバのポート番号は 80 (macOS では 8080) です。異なるポート番号でリッスンするよう Web サーバを構成しているのでない限り、この設定を既定から変更しないでください。

- ・ [スーパーサーバポート番号] を指定します。これは既定で 1972 です (または、1972 が取得されている場合は、51733 またはこれ以降の使用可能な最初の番号になります)。ポート番号は 65535 よりも大きくすることはできません。

詳細 :

- ・ Web サーバが検出されない場合、中止するかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。インストールを続行することを選択した場合は、インストールの完了後に[手動で Web サーバを構成](#)する必要があります。
- ・ 検出された Web サーバに接続しないことを選択したか、[ウェブサーバのタイプ] に [] を設定している場合は、インストールの完了後に[手動で Web サーバを構成](#)する必要が生じます。

重要 Apache httpd Web サーバは、インストール・プロセスで自動的に構成できるため、この Web サーバの使用をお勧めします。インストール・プロセスの開始前に、これがインストールされ、実行されていることを確認してください。ほとんどの場合、Apache Web サーバを手動で構成する必要はありません。

5.8 手順 7 : ライセンス・キーの有効化

既定 :

- ・ アップグレード時に既存のインスタンスの `mgr` ディレクトリにある `iris.key` ファイルをスクリプトが検出しない場合、ライセンス・キー・ファイルの入力を求めるプロンプトが表示されます。
- ・ 有効なキーを指定する場合、インストール中にライセンスは自動的に有効化されて、ライセンス・キーはインスタンスの `mgr` ディレクトリにコピーされるので、これ以上の有効化手順は不要です。
- ・ ライセンス・キーを指定しない場合、インストールに続いて、ライセンス・キーを有効化できます。ライセンス、ライセンス・キー、および有効化の詳細は、“[ライセンス・キーの有効化](#)” を参照してください。
- ・ macOS では、`irisdb` のネットワーク接続に関するプロンプトが表示されることがあります。表示された場合は、**[許可]** を選択します。

5.9 手順 8 : インストールの確認

既定 :

- ・ インストール・オプションを確認し、Enter キーを押してインストールを続行します。[Yes] を選択すると、ファイルのコピーが開始されます。
- ・ インストールが完了すると、InterSystems IRIS システムを管理する管理ポータル URL が示されます。詳細は、“[管理ポータルの使用](#)” を参照してください。
- ・ “[インストール後のタスク](#)” に進みます。

6

UNIX®、Linux、および macOS でのカスタム・インストール

ここでは、UNIX®、Linux、および macOS での手動のカスタム・インストールの手順について詳しく説明します。
ここに示す手順を実行する前に、以下を完了していることを確認してください。

- ・ [UNIX®、Linux、および macOS でのインストール前の手順](#)
- ・ [UNIX®、Linux、および macOS での手動インストール](#) (初期手順)

6.1 カスタム・インストールの概要

既定：

- ・ カスタム・インストールでは、システムにインストールする InterSystems IRIS コンポーネントを選択できます。選択によっては、他のコンポーネントのインストールが必要な場合もあります。
- ・ カスタム・インストールを選択した場合、いくつかのコンポーネントのインストール手順に関する追加の質問に回答する必要があります。既定値は角かっこで囲まれ、これに続いて疑問符 (?) が表示されます。既定値をそのまま使用するには、**Enter** を押します。
- ・ インストール・スクリプト `irisinstall` は、以下を実行します。
 - InterSystems IRIS システム・マネージャ・データベースをインストールします。
 - インストール・モードで InterSystems IRIS を起動します。
 - InterSystems IRIS システム・マネージャ・グローバルとルーチンをインストールします。
 - InterSystems IRIS を終了し、既定の構成ファイル (`iris.cpf`) を使用して再起動します。アップグレード・インストールの場合は、更新後の構成ファイルを使用して再起動されます。

詳細：

- ・ InterSystems IRIS の標準インストールは、複数のモジュール・パッケージ・スクリプトから構成されます。これらのスクリプトでは、それまでの手順に対する入力、システム環境、および既存のインスタンスをアップグレードしているかどうかなどの条件に応じて、情報の入力が求められます。

- ・ インストールの第 1 段階では、このインストールについて収集された情報がすべてパラメータ・ファイルに保存されます。
- ・ その後、実際のインストールが開始される前に、インストールの詳細を確認します。
- ・ 最終段階では、インスタンスのセットアップなど、正常終了したインストールに付随する操作を実行します。

6.2 手順 1：セキュリティ設定の選択

既定：

- ・ 初期セキュリティ設定の選択を求められます。
- ・ のセキュリティ設定を選択するには、「(2)」と入力します。

詳細：

- ・ 以下の初期セキュリティ設定から選択できます。
 - (1)
 - (2)
 - (3)
- ・ 最小は、InterSystems IRIS インストールにのみ使用できます。これを選択した場合、次の手順はスキップできます。インスタンスの所有者はインストーラによって root として設定されます。
- ・ カスタム・インストールでなければ選択できないセキュリティ設定もあります。詳細は、“[手順 4：追加のセキュリティ・オプションの構成](#)”を参照してください。
- ・ さまざまなセキュリティ設定と、システムで 1 つを選択する方法の詳細は、“[インターシステムズの初期セキュリティ設定](#)”を参照してください。

6.3 手順 2：インスタンス所有者の定義

既定：

- ・ 前のステップで最小またはロック・ダウンを選択した場合、追加の情報を入力するよう求められます。
 - インスタンス所有者 – InterSystems IRIS プロセスの実行に使用するアカウントのユーザ名を入力します。このアカウントに関する詳細は、“[所有者およびグループの決定](#)”を参照してください。InterSystems IRIS のインストールが完了すると、インスタンスの所有者は変更できなくなります。
 - インスタンス所有者のパスワード – 前のプロンプトで入力したユーザ名のパスワードを入力し、確認のために再度入力します。このユーザに対して、%All ロールを持つ InterSystems IRIS 特権ユーザ・アカウントが作成されます。

このパスワードは、InterSystems IRIS 特権ユーザ・アカウントだけでなく、_SYSTEM、Admin、および SuperUser の事前定義の各ユーザ・アカウントにも使用されます。これらの事前定義ユーザの詳細は、“[事前定義のユーザ・アカウント](#)”を参照してください。
 - CSPSystem 事前定義のユーザのパスワード。

詳細 :

- ・ パスワードは、“[初期のユーザ・セキュリティ設定](#)” のテーブルに示した条件を満たしている必要があります。この手順で入力したパスワードには、スペース、タブ、またはバックスラッシュの各文字は使用できません。インストーラはそのようなパスワードを受け付けません

6.4 手順 3 : インスタンスを起動または停止するグループの決定

既定 :

- ・ InterSystems IRIS を起動および停止できるグループを指定するように求められます。
- ・ これらの特権を持つことができるのは 1 グループのみで、このマシンで有効なグループでなければなりません。
- ・ 既存のグループ名またはグループ ID 番号を入力します。InterSystems IRIS は、処理を続行する前にそのグループが実際に存在するかを確認します。
- ・ 詳細は、“[所有者およびグループの決定](#)” を参照してください。

6.5 手順 4 : 追加のセキュリティ・オプションの構成

既定 :

- ・ 初期セキュリティ設定で ☐ または ☐ を選択した場合、追加のセキュリティ・オプションを構成するかどうかを尋ねられます。
- ・ 選択した初期セキュリティ設定の既定値を使用してインストールを続行するには、「N」と入力します。

詳細 :

- ・ 「Y」を選択すると、追加の設定を構成するよう求められます。
 - － [InterSystems IRIS の実効グループ] – InterSystems IRIS 内部の実効グループ ID。また、インストール環境にあるすべてのファイルと実行可能ファイルに対する特権をすべて保持しています。最大限のセキュリティ対策として、このグループには実際のユーザは含めないでください。(既定値は irisusr です。)
 - － [InterSystems IRIS スーパーサーバの実効ユーザ] – スーパーサーバとジョブ・サーバによって開始されたプロセスの実効ユーザ ID です。ここでも最大限のセキュリティを実現するために、実際のユーザにはこのユーザ ID を使用しないようにします。(既定値は irisusr です。)
- ・ 追加情報は、“[所有者およびグループの決定](#)” を参照してください。

6.6 手順 5 : Unicode サポートのインストール

既定 :

- ・ InterSystems IRIS を [8 ビット・サポート](#)または [Unicode 文字のサポート](#)のどちらでインストールするかを指定します。
- ・ アップグレード時に、8 ビットから Unicode に変換することはできますが、逆には変換できません。

6.7 手順 6 : Web サーバの構成

既定 :

- ・ ローカル Web サーバが検出されると、その Web サーバを使用してインストールに接続するかどうかを尋ねられます。
- ・ 「y」と入力します。Web サーバは自動的に接続されます。
- ・ 「1」と入力して、[ウェブサーバのタイプ] に Apache を指定します。
- ・ Apache 構成ファイルの場所を入力します。既定のパスは `/etc/httpd/conf/httpd.conf` です。
- ・ [Apache httpd ポート番号] を指定します。既定値は 80 (macOS では 8080) です。アップグレード・インストールではこの選択肢は表示されず、元のインスタンスのポート番号がそのまま使用されます。

重要 インストール中にカスタムの Web サーバのポート番号を指定すると、`WebServerPort` CPF パラメータのみが変更されます。これは、ご使用の Web サーバがリッスンするように構成されたポート番号である必要があります。既定の Web サーバのポート番号は 80 (macOS では 8080) です。異なるポート番号でリッスンするよう Web サーバを構成しているのでない限り、この設定を既定から変更しないでください。

- ・ [スーパーサーバポート番号] を指定します。これは既定で 1972 です (または、1972 が取得されている場合は、51733 またはこれ以降の使用可能な最初の番号になります)。ポート番号は 65535 よりも大きくすることはできません。

詳細 :

- ・ Web サーバが検出されない場合、中止するかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。インストールを続行することを選択すると、インストールの完了後に手動で Web サーバを構成する必要が生じます。
- ・ 検出された Web サーバに接続しないことを選択したか、[ウェブサーバのタイプ] に [] を設定している場合は、インストールの完了後に手動で Web サーバを構成する必要が生じます。

重要 Apache httpd Web サーバは、インストール・プロセスで自動的に構成できるため、この Web サーバの使用をお勧めします。インストール・プロセスの開始前に、これがインストールされ、実行されていることを確認してください。ほとんどの場合、Apache Web サーバを手動で構成する必要はありません。

6.8 手順 7 : ライセンス・キーの有効化

既定 :

- ・ アップグレード時に既存のインスタンスの `mgr` ディレクトリにある `iris.key` ファイルをスクリプトが検出しない場合、ライセンス・キー・ファイルの入力を求めるプロンプトが表示されます。
- ・ 有効なキーを指定する場合、インストール中にライセンスは自動的に有効化されて、ライセンス・キーはインスタンスの `mgr` ディレクトリにコピーされるので、これ以上の有効化手順は不要です。
- ・ ライセンス・キーを指定しない場合、インストールに続いて、ライセンス・キーを有効化できます。ライセンス、ライセンス・キー、および有効化の詳細は、“[ライセンス・キーの有効化](#)” を参照してください。
- ・ macOS では、`irisdb` のネットワーク接続に関するプロンプトが表示されることがあります。表示された場合は、[許可] を選択します。

6.9 手順 8 : インストールの確認

既定 :

- ・ インストール・オプションを確認し、Enter キーを押してインストールを続行します。[Yes] を選択すると、ファイルのコピーが開始されます。
- ・ インストールが完了すると、InterSystems IRIS システムを管理する管理ポータル URL が示されます。詳細は、“[管理ポータルの使用](#)” を参照してください。
- ・ “[インストール後のタスク](#)” に進みます。

7

UNIX®、Linux、および macOS でのクライアントのみのインストール

ここでは、UNIX®、Linux、および macOS での手動のクライアントのみのインストールの手順について詳しく説明します。ここに示す手順を実行する前に、以下を完了していることを確認してください。

- ・ [UNIX®、Linux、および macOS でのインストール前の手順](#)
- ・ [UNIX®、Linux、および macOS での手動インストール](#) (初期手順)

7.1 クライアントのみのインストールの概要

既定：

- ・ クライアント・インストールでは、クライアント・システムで必要となる InterSystems IRIS コンポーネントのみがインストールされます。

詳細：

- ・ クライアント・インストールには、以下のコンポーネント・グループが含まれます。
 - InterSystems IRIS ランチャー
 - スタジオ
 - データベース・ドライバ
 - InterSystems IRIS アプリケーション開発 (言語バインディングを含む)
- ・ これらのコンポーネント・グループの詳細は、“[セットアップ・タイプの選択](#)”を参照してください。

7.2 手順 1：ログイン

既定：

- ・ 任意のユーザとしてログインします。root としてインストールする必要はありません。

- ・ このインストールからのファイルは、インストールしているユーザのユーザ許可とグループ許可を持ちます。

7.3 手順 2 : irisinstall_client の実行

既定 :

- ・ インストール・ファイルの最上位にある irisinstall_client スクリプトを実行し、インストールを開始します。

```
# /<install-files-dir>/irisinstall_client
```

- ・ <install-files-dir> はインストール・キットの場所で、通常はキットの抽出先のディレクトリです。

7.4 手順 3 : システム・タイプ

既定 :

- ・ インストール・スクリプトは、ご使用のシステム・タイプを自動的に検出し、配布メディアのインストール・タイプに対する検証を試行します。
- ・ ご使用のシステムが、例えば 32 ビットと 64 ビットなど、複数のタイプをサポートしている場合、あるいは、インストール・スクリプトがシステム・タイプを識別できない場合は、別の質問が表示されます。
- ・ インストーラ・キット名の末尾の文字列の形式で“プラットフォーム名”を入力するよう求められる場合があります。

詳細 :

- ・ 目的のシステム・タイプが配布メディア上のものと適合しない場合、インストールが停止します。
- ・ この問題を解決するには、[インターシステムズのサポート窓口](#)にお問い合わせください。

7.5 手順 4 : インストール・ディレクトリの指定

既定 :

- ・ [クライアント・コンポーネントのインストール先ディレクトリの入力] のプロンプトが表示されたら、インストール・ディレクトリを指定します。
- ・ 指定したディレクトリが存在しない場合は、ディレクトリを作成するかどうかを尋ねられます。既定の回答は yes です。

詳細 :

- ・ インストール・ディレクトリの選択に関する重要な情報について、“[インストール・ディレクトリ](#)”を確認してください。
- ・ InterSystems IRIS レジストリ・ディレクトリ (/usr/local/etc/irissys) が常に InterSystems IRIS インストール・ディレクトリと共に作成されます。

7.6 手順 5 : インストールの完了

既定 :

- ・ ディレクトリの指定後、インストールは自動的に続行します。[インストールが正常に完了しました] と表示されます。
- ・ “インストール後のタスク” に進みます。

8

UNIX®、Linux、および macOS での自動インストール

ここでは、UNIX®、Linux、および macOS での自動インストールの手順について詳しく説明します。

ここに示す手順を実行する前に、以下を完了していることを確認してください。

- ・ [UNIX®、Linux、および macOS でのインストール前の手順](#)

8.1 自動インストールの概要

既定：

- ・ `irisinstall_silent` スクリプトを使用すると、InterSystems IRIS インスタンスの自動インストールを各自のシステムで実行できます。
- ・ 自動インストールでは、`irisinstall_silent` コマンド行で指定された構成パラメータとパッケージから構成の仕様を取得します。
- ・ 各指定パッケージは InterSystems IRIS コンポーネントを表しています。各コンポーネントのインストール・スクリプトは、`irisinstall_silent` スクリプトを含むディレクトリの下に `packages` ディレクトリにあります。
- ・ コマンド行 `irisinstall_silent` の一般的な形式は、環境変数の設定によるインストール・パラメータの定義の後にコマンド自体が続きます。詳細は、以下の例を参照してください。

例：

```
sudo ISC_PACKAGE_INSTANCENAME="<instancename>"
ISC_PACKAGE_INSTALLDIR="<installdir>"
ISC_PACKAGE_PLATFORM="<platform>" ISC_PACKAGE_UNICODE="Y" | "N"
ISC_PACKAGE_INITIAL_SECURITY="Minimal" | "Normal" | "Locked Down"
ISC_PACKAGE_MGRUSER="<instanceowner>" ISC_PACKAGE_MGRGROUP="<group>"
ISC_PACKAGE_USER_PASSWORD="<pwd>" ISC_PACKAGE_CSPPASSWORD="<pwd>"
ISC_PACKAGE_IRISUSER="<user>" ISC_PACKAGE_IRISGROUP="<group>"
ISC_PACKAGE_CLIENT_COMPONENTS="<component1> <component2> ..."
ISC_PACKAGE_STARTIRIS="Y" | "N"
./irisinstall_silent [<pkg> ...]
```

8.2 手順 1：開始前

既定：

- ・ インストールを開始する前に、必要な[インストール前の手順](#)を実行します。
- ・ 外部 Web サーバをインストールする方針を決定します。
 - － 最も簡単なオプションは、インストールを開始する前に Apache httpd Web サーバをインストールすることです。インストーラにより、この Web サーバを自動構成できます。
 - － 異なる Web サーバを使用するか、IIS Web サーバを[手動で構成する](#)予定である場合は、インストールの前に実施する必要のある手順について、“[Web サーバのインストール](#)”を確認してください。

8.3 手順 2：root としてログイン

既定：

- ・ ユーザ ID root としてログインします。
- ・ root 以外のアカウントでログインしているときでも、su (スーパーユーザ) コマンドで root に変更できます。

詳細：

- ・ root が使用できない場合は、非 root ユーザとして InterSystems IRIS の非標準の制限付きインストールを実行できます。続行する前に、“[InterSystems IRIS の非 root ユーザとしてのインストール](#)”を参照してください。

8.4 手順 3：指定するパラメータの決定

既定：

- ・ 自動インストールに必要なパラメータを含めます。
 - － ISC_PACKAGE_INSTANCENAME=“<instancename>”
 - － ISC_PACKAGE_INSTALLDIR=“<install-dir>” (新規インスタンスのみ)
 - － ISC_PACKAGE_USER_PASSWORD=“<password>” (または のセキュリティ・レベルのインストールに必要)
- ・ これらの必須パラメータの詳細は、“[自動インストール・パラメータ](#)”を参照してください。
- ・ インストールでは、含まれていないパラメータについては既定値を使用します。必須パラメータが含まれていない場合、インストールは失敗します。

詳細：

- ・ その他のパラメータを含めます。詳細は、“[自動インストール・パラメータ](#)”を参照してください。

8.5 手順 4 : 自動インストール・パッケージの使用

既定 :

- ・ パッケージ名や `standard_install` パッケージを含めないでください。

詳細 :

- ・ 各コンポーネントのインストール・スクリプトは、`irisinstall_silent` スクリプトを含んでいるディレクトリの配下の `packages` ディレクトリに含まれています。
- ・ 各パッケージは、それぞれのディレクトリ内に配置され、各パッケージのディレクトリには、そのディレクトリ内パッケージの前提条件となるパッケージが定義された `manifest.isc` ファイルが含まれています。
- ・ `standard_install` パッケージは、すべてのパッケージがインストールされるサーバ・インストールの開始ポイントです。
- ・ インストールにこれらのパッケージを 1 つ以上含めることができます。
- ・ インストールにカスタム・パッケージを定義することもできます。詳細は、“[自動インストール・パッケージ](#)”を参照してください。
- ・ より複雑なカスタム・インストール・パッケージの詳細は、“[InterSystems IRIS ディストリビューションへの UNIX® インストール・パッケージの追加](#)”を参照してください。

8.6 手順 5 : インストール・コマンドの作成

既定 :

- ・ 以下の形式を使用してインストール・コマンドを作成します。

```
sudo ISC_PACKAGE_INSTANCENAME=<instance-name> ISC_PACKAGE_INSTALLDIR=<install-dir> [PARAMETERS]
./irisinstall_silent [PACKAGES]
```

- ・ [その他のパラメータ](#)を空白で区切って含めます。
- ・ [特定のパッケージ](#)を空白で区切って含めます。

例 :

- ・ この例では、すべてのパッケージが最低限のセキュリティでインストールされます。

```
sudo ISC_PACKAGE_INSTANCENAME="MyIris" ISC_PACKAGE_INSTALLDIR="/opt/MyIris1" ./irisinstall_silent
```

MyIris インスタンスが既に存在する場合は、これがアップグレードされます。存在しない場合は、`/opt/MyIris1` ディレクトリにインストールされます。

- ・ この例では、**MyIris** という名のインスタンスが存在しない場合に、インストールが中止され、エラーがスローされます。

```
sudo ISC_PACKAGE_INSTANCENAME="MyIris" ./irisinstall_silent
```

- ・ この例では、`database_server` パッケージ、`odbc` パッケージおよび `odbc` クライアント・バインディングのみが最低限のセキュリティでインストールされます。

```
sudo ISC_PACKAGE_INSTANCENAME="MyIris" ISC_PACKAGE_INSTALLDIR="/opt/MyIris2"
ISC_PACKAGE_CLIENT_COMPONENTS="odbc" ./irisinstall_silent database_server odbc
```

8.7 手順 6 : コマンドの実行

既定 :

- ・ 上記の手順で作成したコマンドを実行します。
- ・ [インストール後の手順](#)に進みます。

9

UNIX®、Linux、および macOS でのインストール後の手順

ここでは、UNIX®、Linux、および macOS でのインストールにおけるインストール後の手順を詳しく説明します。

- ・ [UNIX®、Linux、および macOS でのインストール前の手順](#)。
- ・ [手動](#)または[自動](#)インストールの正常な実行。

9.1 インストール後のタスク

開始：

- ・ [InterSystems IRIS](#) を起動します。
- ・ [開発環境をインストール](#)します。

Web サーバのセットアップ：

- ・ インストール・プロセスで Web サーバを自動構成しなかった場合は、[これを手動で接続](#)する必要があります。
- ・ Web サーバで 80 以外のポート番号を使用している場合は、IDE と接続できるようにするため、CPF の [WebServerPort](#) および [WebServerURLPrefix](#) パラメータを Web サーバのポート番号に変更する必要があります。
- ・ Web サーバが構成の変更を実装するためには、インストールの終了後に Web サーバを再起動する必要があります。

高度なセットアップ：

- ・ 大量のメモリを消費するアクティビティを実行する場合は、適宜[システム・メモリを割り当て](#)ます。
- ・ InterSystems IRIS が[サードパーティ・ソフトウェアとやり取り](#)する方法の詳細を確認します。
- ・ 別のデータベースから新しくインストールした InterSystems IRIS インスタンスにデータを移行します。

特別な考慮事項：

- ・ 複数の InterSystems IRIS インスタンスを実行している場合は、“[複数の InterSystems IRIS インスタンスの構成](#)”を確認してください。
- ・ [InterSystems IRIS の言語を変更](#)します。

- ・ 多数のプロセスまたは Telnet ログインを必要とするシステムの場合は、“[macOS での多数の同時プロセスの調整](#)”を確認してください。